

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和4年度学校評価計画

達成度（評価）
 A：十分達成できている
 B：おおむね達成できている
 C：やや不十分である
 D：不十分である

学校名 小城市立小中一貫校芦刈観瀾校

1 前年度 評価結果の概要
 ・全国学力学習状況調査結果において、全国・県の平均を下回り、学力の低さが課題となった。全職員の共通理解と共通実践による授業力向上と学習規律の定着、家庭学習の充実により、学力向上を図る。
 ・小中一貫教育については、校内研として全職員での共通理解のもと取り組むことができた。小中の協力体制が整い、プロジェクト部会の取組と9年間を見通した学びの両面から小中一貫教育の充実を図ることができた。さらなる活動の工夫と保護者や地域への周知を丁寧に行っていく。
 ・働き方改革については、依然として時間外勤務時間の上限を超える職員が多数いて課題が残った。行事や業務の見直し・精選と職員の意識改革をさらに進めていく必要がある。

2 学校教育目標 ふるさとを愛し、未来を拓く、心身ともに元気な子どもの育成 ～「ともに」「つなぐ」小中一貫教育～

3 本年度の重点目標
 ①学力の向上 ②豊かな心の育成 ③健康な体づくり ④多様な活動を促進するための教育活動や働き方の見直し ⑤小中一貫教育の成果の確認 ⑥特別支援教育の充実 ⑦保護者・地域連携の推進

4 重点取組内容・成果指標 中間評価 5 最終評価

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言		
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践 ○学習状況調査等における結果の向上	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師を80%以上にする。 ○学習状況調査等において、前年度の結果を上回る学年・教科を50%以上にする。	・教職員間でマイプランを共有するとともに、校内研修等により取組の推進を図る。 ・随時、進捗状況等を確認しながら、確実な履行を進め、達成者を増やしていく。 ・前年度の学習状況調査分析結果を基に、課題解決に向けた授業改善を進める。 ・週末課題として、学習状況調査等に対応した問題に取り組み、解説や個別指導等の補充を充実させる。						学びプロジェクト	
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○児童生徒の規範意識や思いやりに関する質問で「当てはまる」と回答した児童生徒の割合を80%以上にする。	・異学年交流を実施し、その後、手紙を書いて思いを伝えさせる。 ・年間計画に沿った道徳教育の実践に取り組むとともに、教育活動における心の教育の充実を職員が意識する。 ・人権・同和教育や平和学習を「いじめ防止・心を考える日」に合わせて全校で取り組む。						生活プロジェクト	
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○「何かあった時に学校に相談しやすい」と感じる児童生徒の割合を80%以上にする ○「いじめに対し、組織的に対応できている」と感じる職員の割合を90%以上にする。	・定期的に生活アンケートや教育相談等を行い、気になる児童生徒については職員間で情報共有を行う。 ・毎月10日の「いじめ防止・心を考える日」に合わせて、朝の時間に『いじめゼロ宣言』の読み上げ、毎月の視点に沿った活動を取り入れる。 ・職員研修やいじめ対策委員会を設定し、組織的にいじめ防止に取り組む。						生活プロジェクト(生活指導)	
	◎小・中学部がともに高め合い、進んで行動できる児童生徒の育成	○なかよしアンケートにおいて、「あいさつ」「掃除」の項目で達成率を上昇させる。 ○行事・活動後の振り返りにおいて、自身の成長を感じたり、さらなる成長を目指したりする記述ができる児童生徒の割合を90%以上にする。	・小中あいさつ運動の実施 ・小中共通したそうじチェックシートを使った振り返りの実施 ・小中共通した掃除のやり方の確認 ・小中合同クリーン作戦の実施 ・中期ブロックの交流会の実施(7年生による6年生への中学部での生活についての説明)						元気プロジェクト(行事)	
●健康・体づくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●「健康に食事は大切である」と考える児童生徒85%以上 ○家庭教育指針で「朝ご飯をしっかり食べる」の項目の回答を年度当初より向上させる。	・全学年において、年1回以上栄養教諭が参画した食育の授業を行い、食への意識の向上を図る。 ・家庭教育指針を全学年で年3回行い、1回目の結果をその後の指導に反映させる。 ・「食育だより」や学校HP等を通して、食の大切さに関する情報を保護者や地域に発信する。						元気プロジェクト	
	○健康・衛生に対する意識の向上	○健康衛生チェックを行い、衛生に対する意識を年度当初より向上させる。	・通年で月2回程度健康衛生チェックを行い、基本的衛生習慣の定着を図る。 ・毎回のチェック結果をグラフ化し、保健室前に掲示したり、保健だよりに掲載したりして、より意識を高める。 ・意識が低い児童生徒に対しては、個別に保健指導を行う。							
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・小学部は毎週金曜日、中学部は月曜日を定時退勤日に設定し、実行を促す。 ・毎月、業務記録を把握し、1ヶ月で45時間、1年間で360時間以内の遵守を目標に、意識の向上と業務の効率化に取り組む。 ・会議の削減、ICT利活用の工夫改善を通し、効果的な業務改善を推進する。						教頭	

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言		
○小中一貫教育の充実・活性化	○プロジェクト部会の活性化や校内研究の充実を中心とした、小中一貫教育推進体制の充実	○「小中一貫による9年間の教育活動が充実している」と感じている保護者の割合を80%以上にする。 ○「小中交流授業や小中一貫の取組が充実している」と感じる職員の割合を90%以上にする。	・3つのプロジェクトで、小中一貫教育に関する重点取組事項を設定し、全職員で共通理解を図って取り組む。 ・校内研において小中教職員相互の授業協力体制を整え、小中交流授業を実施する。 ・「学校だより」や学校HP等を活用し、小中一貫教育に関する情報を保護者や地域に発信する。						副校長	
○特別支援教育の充実	○教員の専門性と意識の向上	○特別支援に関する専門性が向上したと感じる教員を80%以上にする。	・特別支援に関する研修会を年間5回以上実施する。 ・ケース会議や情報共有の場を定期的に設定し、組織として対応する。						特別支援コーディネーター	
○コミュニティ・スクールの推進	○地域との交流や地域を生かした体験活動の充実	○「地域との交流や体験活動に積極的に参加している」と感じている児童生徒の割合を80%以上にする。 ○「学校の教育活動は地域との連携がなされている」と感じている保護者と職員の割合を80%以上にする。	・生活科・総合的な学習の時間で、地域(ひと・もの・こと)を学ぶ場を設定する。 ・地域との連携・交流を生かした活動を設定し、工夫して取り組む。 ・「学校だより」や学校HP等を活用し、地域連携に関する情報を保護者や地域に発信する。						教頭	

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望